教育実践部門：社会科④（発表原稿）

問いをつなげる児童の育成を目指して

～「単元計画シート」と「情報カード」を組織した『年間プログラム』の活用を通して～

五泉市立五泉南小学校
渡辺　亮（平成２９年度）

（主張）
本研究は、教員から提示された課題を受動的にこなす受け身の学習姿勢（CO）からの脱却を図り、児童が「問い」を立ててつなげながら、主体的に探究する社会科授業の創造を目指したものである。学習指導要領が示す「社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識」の確実な獲得を期し、中核的な手立てとして『単元計画シート』と『情報カード』を活用した『問いをつなげる年間プログラム（３ステップの指導段階)』を構築するとともに、「授業の終わりと始まりを問いでつなげる連続性の可視化」を推進した。その結果、児童が社会的事象の見方・考え方を主体的に働かせて必要な情報を多角的に収集し、問いを連続させながら学びを作り上げる姿（Ｃｎ）を具現化することができた。